

Newsletter

2020年（令和2年）

4月例会

日時：4月18日（土）14時より

会場：東京工業大学（大岡山キャンパス）南4号館S421教室

①講師：立教大学（非常勤） 小倉康寛

題目：ボードレールにおける彫刻と自意識

司会：日本大学 椎名正博

②講師：日本大学（元教授） 福島昇

題目：『テンペスト』と『タール・ベイビー』

——トニ・モリスンにおけるシェイクスピア表象の転換——

司会：宇都宮大学（名誉教授） 市川裕見子

5月例会

日時：5月16日（土）14時より

会場：日本女子大学（目白キャンパス）香雪館201教室

特別講演「私の演劇を築いてきたもの」

講師：まつもと市民芸術館芸術監督、俳優、演出家、日本大学芸術学部

特任教授 串田和美

司会：日本大学 田中徳一

7月例会

日時：7月18日（土）14時より

会場：日本女子大学（目白キャンパス）新泉山館1階大会議室

特別企画：シリーズ《戦後出版文化をたどる》第1回

題目：「講談社文化の今——野間省伸社長にきく」

講師：講談社代表取締役社長 野間省伸

司会：東京大学（名誉教授） 井上健

9月例会

日時：9月19日（土）14時より

会場：東京工業大学（大岡山キャンパス）

西9号館2階コラボレーションルーム

①講師：日本女子大学 内山加奈枝

題目：「文化」としての少女の病

——*Girl, Interrupted*にみられるフロイト受容から考える——

司会：専修大学 中垣恒太郎

②講師：東北公益文科大学 呉衛峰

題目：現代中国語圏短詩型における俳句の影響について

司会：日本大学 呉川

2020年（令和2年）3月15日発行

INSIDE THIS ISSUE

1. 4月・5月・7月・9月例会案内
- 2-3. 例会会場案内
- 4-7. 例会要旨等
8. 東京支部短信

幹事会開催のお知らせ

第1回幹事会

2020年7月例会後、例会会場にて開催します。

（幹事会構成員は、幹事、支部長、事務局長、各種委員会委員長、会計、会計監査です）

役員連絡会開催のお知らせ

2020年4月、5月、および9月例会終了後、7月は13時より、例会会場にて開催します。（役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、会計を含む事務局委員、各種委員会委員長です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します）

4・9月例会会場 (なお、それぞれ教室は異なります)

東京工業大学大岡山キャンパス

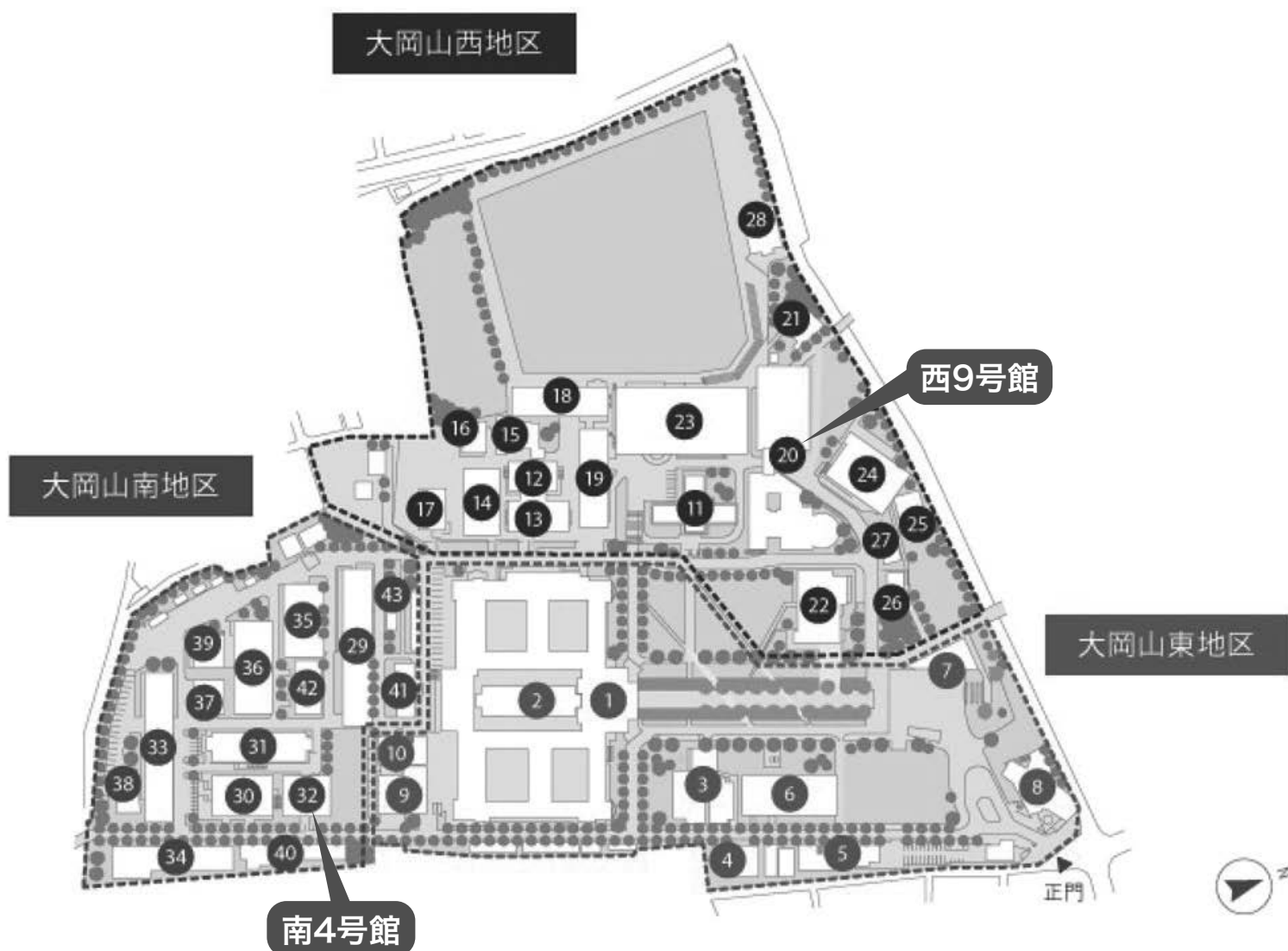
〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1

◆東急大井町線・目黒線

大岡山駅 徒歩1分

4月会場 南4号館S421教室

9月会場 西9号館2Fコラボレーションルーム



4 月 例 会 発 表 要 旨

ボードレールにおける彫刻と自意識

立教大学（非常勤） 小倉康寛

フランス象徴派は詩と諸芸術との越境を好んだ。J.-N. イルーズの『象徴主義』(*Le Symbolisme*, 2004)によれば、その始点は、シャルル・ボードレール (Charles Baudelaire, 1821-1867) の詩篇「灯台」(« Les Phares », 1857, 1861) であった。だが彼にとって「越境」は、どのような動機があったのか。疑問が残るのは彫刻である。「灯台」は各節で芸術家を寸評していく。この中で、彼は彫刻家としてピュジェをあげる。だが著述全体におけるピュジェの言及はこれを含めて、二度に過ぎなかった。さらに彼は美術批評『1846年のサロン』(*Salon de 1846*, 1846) で、彫刻全般を「退屈」ennuyeux と断じた。

以上はロマン派が絵画を特権化し、彫刻を軽視したことに重なる。しかし 1840 年代から 1850 年代特有の問題も忘れてはならない。この時期、時代を背負う彫刻家が存在しなかった。つまり、ロダンもカルポーもおらず、バロック期のピュジェに遡らなければならないほどであった。C. ハムリックは « ennuyeux » が「低迷」の意ではなかったかと問う。疑問はまだある。彼は美術批評で冷淡な態度を取ったにもかかわらず、詩篇で、女のモチーフを彫像に多くなぞらえた。阿部良雄が示唆したように、彫刻をめぐる矛盾には、好みの問題や、ロマン派の流れを超えた、詩人の悩みがあったのではないか。

本発表の起点は、『悪の花』(*Les Fleurs du mal*, 初版; 1857, 第二版; 1861) で、ボードレールが、生きた女を彫刻化したことである。神話のピグマリオン王は彫刻を生きた女にしたとすれば、彼は逆をしている。石の女と寝るのは、男もつらい——。かつて J.-P. サルトルは、彫刻的な女と詩の語り手との暴力をともなう情愛を、ブルジョワ的なマゾヒズムと嘲罵した。だが『悪の花』は 1843 年から、幾度も推敲を重ねた詩集である。本発表は彫刻家の労苦を描いた「芸術家たちの死」(« La Mort des artistes », 1851, 1857, 1861) を生成研究の手法で論じる。ここを軸に、情欲と美との分割など、拙著『ボードレールの自己演出』(2019) でも示した作家的主体の段階的な変化を示していく。

『テンペスト』と『タール・ベイビー』

——トニ・モリスンにおけるシェイクスピア表象の転換——

日本大学（元教授） 福島昇

すでにマリン・ラボン・ヴァルターの指摘があるように、トニ・モリスン (Toni Morrison, 1931-2019) はシェイクスピアの戯曲『テンペスト』(創作年 1611) の新解釈を試み、小説『タール・ベイビー』(*Tar Baby*, 1981) を創作する。確かに、『テンペスト』と『タール・ベイビー』の主要な舞台は西インド諸島であり、『テンペスト』のプロスペロー大公、奴隷キャリバン、プロスペローの娘ミランダと、『タール・ベイビー』のヴァレリアン、黒人サン、ヴァレリアンの援助を受けたジェイディーンとの間には、それぞれ人種、階級の面で多くの共通点がある。

プロスペローは劇の最後で、ナポリ王と和解すると、今まで野蛮で奇形な先住民として人種差別してきたキャリバンについて、みんなの前で「この悪魔の化け物は残念ながら私の一部だ」と告白する。プロスペローは魔術を使って正統な島の住民であるキャリバンを奴隷化した自分こそが野蛮であり、キャリバンは島の王様なのだと認識したわけである。プロスペローのこうした罪の告白は、ヴァレリアンの「故意にイノセント（無垢＝無知）な人間ほど忌まわしいものなど他にあるだろうか」と言う言葉を想起させる。ヴァレリアンはずっと長い間、黒人を人種差別してきたことを、ある日痛烈に批判されるが、なぜ彼らに批判されねばならないのかその原因が分からず呆然自失となる。彼は人種的にも階級的にも黒人を周縁化してきたことに、気づかぬふりをしてきた自分の無知の罪の深さに恐れをなす。

モリスンは『タール・ベイビー』を『テンペスト』の理想主義的な読み方と批判的な読み方の交点に置き、知・学問のヨーロッパ中心主義的誤謬の修正を試みる。本発表では、二つの作品において白人が先住民やアフリカ系アメリカ人に犯してきた無知、潔白をよそおう罪などについて、ポスト・コロニアリズムと、白人がでっち上げた実際には存在しない概念である、モリスンの造語「アメリカン・アフリカニズム」の視点から明らかにする。

5 月 例 会 発 表 要 旨

特別講演「私の演劇を築いてきたもの」

まつもと市民芸術館芸術監督 串田和美

今日は以下の諸点についてお話ししたいと思います。私が演劇というものを自分の人生の中心に置くようになった謎と経緯。歌舞伎という日本の大衆演劇との関わりと距離感。西洋の様々な芸術表現が、自然主義の行き詰まりの中で、他文化であるアジア、取り分け日本の浮世絵や能、歌舞伎に影響を受けたこと。自然主義演劇を西洋から学んだ日本人が、日本から刺激を受けた（もちろん全てではないが）新しい西洋演劇に更に逆輸入的に影響を受けたこと。私が若い頃、特に表現主義的な演劇やブレヒトの客観的視点の演劇表現、シュールリアリズム、不条理演劇などに興味を持ったこと。新劇の王道である俳優座付属俳優養成所を卒業しながらも、新たな自分たちの演劇表現をつくろうと、劇団と小劇場活動を始めたこと。演劇空間のこと。その時の観客との関係性について。そこから生まれた演劇感。

私は学者ではなく、目の前の社会状況の中でひたすら自分の演劇を成立させることに必死に立ち向かってきた現場の演劇人です。自分の経験してきたこと、演劇表現について考え続けてきたことをお話ししようと思っています。そこから皆さんが何かをすくい取り、ご自分の研究材料にしてくださるか、ひと時の余興として楽しんでくだされば嬉しい限りです。また私は話好きですので、興が乗って脱線しそうになったら、いつでも声をかけて質問をしてください。そうして対話のような時間になっても良いのではないかと思います。

〔略歴・活動歴〕

終戦後、3歳の時、疎開先の山形県新庄の更に奥の荒小屋というところで、地歌舞伎か旅の一座かの芝居を観る。薙掛けの芝居小屋。小学校低学年の頃、学校廻りの児童演劇を観てそのカーテンコールというものに感動する。中学1年の時、上級生が上演した新入生歓迎のお芝居。初めて観たその二重構造の演劇に驚き、すぐに演劇部に入部する。その頃、父やその仲間たち、詩人や哲学者、版画家などの集まる会で、チエホフの「タバコの害について」を演じる。その後中高生の頃は登山に夢中になり、絵を描き、演劇部では芝居をしていたものの、ほとんど勉強はしなかった。卒業間際に苦心して受験勉強をして日本大学芸術学部演劇学科に入るが、あまり面白く感じず、翌年俳優座付属俳優養成所に入る。卒業後1年間文学座に所属。1966年、劇団自由劇場を創立、同時に地下劇場アンダーグラウンド自由劇場を設立。海外に初めて行ったのは1969年、東ベルリンで、ベルリーナーアンサンブルでは、まだブレヒトが演出したままの舞台を何本か観ることができた。27歳だった。その時の感動が後の自分の演劇づくりの元になっている。舞台俳優に専念するつもりでいたが、自由劇場は5年後に解散的分裂をしたため、演出も手がけなければならなくなる。アンダーグラウンドのかわりにオンシアターを冠し、吉田日出子氏等と自由劇場を維持する。「上海バンスキング」などの話題作により、次第に劇団の活動規模も大きくなり、1985年、東急文化村開設準備室のシアターコクーン芸術監督を引き受ける。

以下は略年譜とする。

- 1989年 シアターコクーンがオープン。毎年数々の新作、再演公演を行う。
- 1994年 中村勘三郎（当時勘九郎）と組んでコクーン歌舞伎を始める。
- 1995年 フランスのアヴィニョン演劇祭でモリエールの「スカパン」を上演。
- 1996年 上記芸術監督退任と同時に、30年間続けた自由劇場（当時はオンシアター自由劇場）も解散。
- 2000年 日本大学芸術学部演劇学科教授に招かれる。
- 2003年 長野県松本市に建設中の「まつもと市民芸術館」の芸術監督に就任。同芸術館では「信州まつもと大歌舞伎」「空中キャバレー」を隔年で行う。地元劇団「TC アルプ」を設立し数々の新作を作り公演を行い、今日に至る。
- 2004年 ニューヨーク・リンカーンセンターで「夏祭浪花鑑」上演。
- 2007年 同センターで「法界坊」上演。
- 2008年 ベルリンとルーマニアのシビウで「夏祭浪花鑑」上演。
- 2015年 シビウの劇団で安倍公房の「幽霊はここにいる」を演出。「スカパン」も上演。
- 2019年 シビウとセルビアのノヴィサドで「K テンペスト」を上演。

7 月 例 会 発 表 要 旨

シリーズ《戦後出版文化をたどる》第 1 回 「講談社文化の今——野間省伸社長にきく」

講談社代表取締役社長 野間省伸氏
司会 東京大学名誉教授 井上健

近年、メディア史、出版史研究の進展は目覚ましく、そうした視座を取り込んだ比較文学比較文化研究の成果も多く世に問われているが、管見する限り、明治から昭和戦前にかけての出版・雑誌研究が主体で、戦後日本に関しては、占領期検閲下の雑誌研究などを除けば、取り組むべき課題はいまだ多く残されているように思われる。

本シリーズ企画は、占領期、冷戦期、高度経済成長期から、「ポストモダン」期を経て 21 世紀へと、戦後出版事業が歩んできた起伏に富んだ道のりを、オーラルヒストリーとして辿り直さんとするものである。占領期検閲の一方で活字文化への「飢え」が出版事業を下支えした時期から、新たな読書大衆化の時代、サブカルチャーとマルチメディアの時代へと推移していった戦後出版文化の諸相に、メディア史、メディア編成、学芸・文芸ジャンルの再編成、叢書（文庫・新書・全集など）の諸形態の変遷、読者層の変容などの視点から、新たな光を当てることを目指す。加えて、外国文学・思潮の翻訳紹介、日本文学・文化の海外発信の歴史と現況に着目しつつ、戦後日本における《近代化論》、《日本文化論》、《翻訳文化論》の系譜を、比較文学比較文化研究の視座より再検証することを展望する。

第一回は、昨年創立 110 周年を迎えた講談社の野間省伸代表取締役社長にご登壇を願って、創業以来「おもしろくて、ためになる」本創りを目指してきた講談社の戦後 75 年の出版活動について、ことに海外事業、電子書籍をはじめとするデジタル事業、「映像化・アニメ化といったライツビジネス」を含めた、その現在と近未来について、下記の④、⑧、⑨を中心に語って頂く（「」内引用はともに講談社 HP「会社概要」より）。

- ①出版活動における雑誌、全集の位置づけ（『群像』創刊＝1946 年、『キング』終刊＝1957 年、二種の世界文学全集の刊行＝1967 年、1974 年）
- ②文学賞・文化賞、各種文化事業の目指すものとその史的意義（野間文芸賞、野間文芸新人賞、野間児童文芸賞、講談社出版文化賞、野間出版文化賞、野間文芸翻訳賞、講談社エッセイ賞、大江健三郎賞、講談社漫画賞、吉川英治文学賞、講談社本田靖春ノンフィクション賞、講談社科学出版賞、江戸川乱歩賞、「本と遊ぶ 全国訪問おはなし隊」など）
- ③作家と出版社の相互（互助的？）関係について（出版社が作家を育て、育った作家の文業が出版社のキャラクター形成に寄与していく。大江健三郎、村上春樹、吉川英治、山岡荘八など）
- ④出版活動国際化の経緯、その現状と未来（講談社インターナショナル設立＝1963 年、講談社 USA パブリッシング設立＝2008 年）
- ⑤ディズニーとの業務提携（ディズニープロダクションと独占契約＝1960 年）
- ⑥文庫・新書文化の過去・現在・未来（講談社文庫＝1971 年、学術文庫＝1976 年、文芸文庫＝1988 年、現代新書＝1964 年）
- ⑦刊行物における翻訳書の比率の推移
- ⑧マンガ文化の行方（世界の中の日本マンガ、マンガはサブカルチャーか、今やメインカルチャーか）
- ⑨デジタルコンテンツの将来

（文責 井上健）

9 月 例 会 発 表 要 旨

「文化」としての少女の病 ——Girl, Interrupted にみられるフロイト受容から考える——

日本女子大学 内山加奈枝

スザンナ・ケイセン (Susanna Kaysen 1948-) の *Girl, Interrupted* (1993) は、ヴェトナム戦争に揺れる 60 年代後半、2 年にわたり精神病棟で過ごした自身の体験を、25 年の歳月を経て記した回想録である。本作は、白人中産階級の少女が精神を病むという文脈において、シルヴィア・プラス (Sylvia Plath, 1932-63) の *The Bell Jar* (1963) の系譜をひく思春期文学であり、20 世紀最後の年、ジェームズ・マンゴールド監督により同名タイトルにて映画化された。

回想録では、ケイセン自らの疑念——入退院に際しての医学的根拠の曖昧さ——が一貫して問われ、個人の体験であるはずの病が、女性と狂気を結びつける近代医療によって均一化される過程が示される。一方、映画では、ケイセンのフェミニスト的体制批判は影を潜め、少女が集団生活を通して病から脱していく成長物語に書き換えられている。また、原作にみられるフロイトの精神分析や近親相姦のタブーに関する言及は、誇張される形で映画に取りこまれ、アメリカにおけるフロイト受容の大衆化を顕著に反映している。おりしも、ケイセンの回想録が出版され、映画化された 90 年代は、幼少期に性的虐待を受けたという（偽りの）記憶を、セラピーの誘導により取り戻した娘が父親を告発する訴訟が多発した。そうした社会現象を反映するかのように、映画では、病を語る少女こそが、ある種の魅力を放つ存在として描かれる。

本発表では、ケイセンの回想録、映画化作品を中心に、同時代の少女文学、精神医療の言説を参照しながら、フロイトが放棄した誘惑理論が 20 世紀後半のアメリカで再熟した要因を考察するとともに、個別に発症する病が集団的病理（少女が病む文化）として形成されていく過程を示したい。

現代中国語圏短詩型における俳句の影響について

東北公益文科大学 呉衛峰

中国語現代詩における俳句の影響については、1920 年前後の「小詩運動」以降の長い空白を経て、中国本土では 1980 年に始まった「漢俳」および台湾における 1990 年前後の「俳句ブーム」をその端緒と見てよからう。

「漢俳」のような日本伝統俳句の移植が実践される一方、いわゆる「俳句的瞬間」、つまり俳句の詩的精神のみに着目し、中国語現代詩に取り入れる試みも存在する。

1987 年の戒厳令解除から間もなくの 1990 年前後から、台湾では俳句ブームが興ったのを受け、当時まで散発的だった台湾や東南アジアの短詩型中国語詩が多くの人に実験されるようになった。台湾の詩人・芸術家の陳黎 (1954-) による『小宇宙——現代俳句一百首』(1993 年)、『小宇宙Ⅱ——現代俳句一百首』(2006 年)、『小宇宙 & 変奏——現代俳句 266 首』(2016 年) の無題三行詩がその代表である。

2000 年以降、台湾と東南アジアの華人圏では短詩型現代詩が様々な定義と形式に則って絶えず実践されてきた。2015 年、中国本土で流行り出した四行以内の無題短詩型「截句」が、「俳句美学に基づき、瞬間的観照を切り取る (中国語: 截)」ことを標榜して反響を呼び、翌 2016 年、各冊それぞれ一人の詩人の作品を収めた十九部から成る「截句詩叢」が出版されるや、2017 年、対岸の台湾では白靈 (1951-) らが中心となる台湾詩学季刊社が十五部から成る「截句詩集」を詩社成立 25 年記念として出版した。

「現代俳句」にせよ、「関小詩」にせよ、「截句」にせよ、それらは概ねモダニズムの詩的手法を用いた短詩型であり、内容也多岐に亘る。政治的理由で欧米と比べてかなり出遅れたとの印象はぬぐいがたく、日本俳句への誤解も多々あるが、世界文学という視点から見れば、最短詩型としての俳句の文学理念がグローバル的拡散の中で如何に受け入れられ、変容させられたかを考察する好材料となるに違いない。

支部長からの挨拶

佐藤宗子

東京支部長となって初めて迎えた支部大会を、2019年10月19日に無事に終えることができました。これも、準備を着実に進めてくださった内山加奈枝実行委員長、東海大学のキャンパスを会場として提供して下さった堀啓子事務局長、関係する諸委員会委員長、そして各委員の皆様方のご尽力の賜と、あらためて支部会員の皆さんの結束に感謝申し上げる次第である。さて2020年度は、夏に開催される東京オリンピックの影響で、早稲田大学で開催される全国大会が5月末開催となる。年度前半の支部例会にも、何らかの影響が出る懸念もある。その一方で、例会はさまざまな企画が予定されている。5月例会は特別企画として俳優・演出家・日本大学芸術学部特任教授の串田和美氏にプレヒト・歌舞伎・海外公演についてお話しただく。7月例会では講談社代表取締役社長の野間省伸氏にお越しいただくことで、シリーズ《戦後出版文化をたどる》をスタートさせる。いずれも、貴重なお話を伺う機会として楽しみである。秋の支部大会に向けての準備委員会もスタートした。

今年もご協力のほど、よろしくお願いいたします。

第58回東京支部大会研究発表者募集

2020年10月17日(土)予定。東海大学高輪キャンパスにおいて、第58回東京支部大会が開催されます。研究発表を希望される方は、氏名、住所・連絡先(電子メールアドレス)、所属、発表題目、400～600字程度の発表要旨をメール添付で、6月6日(土)必着で事務局(hikakubungakutokyo@gmail.com)までお送りください。発表時間は25分、質疑応答が10分です。なお、申し込み受付の返信をお送りしますので、ご確認ください。

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』への投稿について

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』は、原則として毎年一回、11月末日に発行されます。研究論文投稿資格を有する者は、本学会員で、前年および前々年に開催された東京支部例会または東京支部大会において研究発表や講演を行った者としてします。投稿論文の提出期間は8月16日から8月31日まで。送付先は下記の通りです。

日本比較文学会東京支部編集委員会委員長 椎名正博 shiina@chs.nihon-u.ac.jp

詳しい投稿規定および執筆要領、投稿用のテンプレートは東京支部ホームページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。ご質問がある方は支部事務局に電子メールでお問い合わせください。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局(hikakubungakutokyo@gmail.com)に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月一日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。ご希望の方は、日本比較文学会東京支部のウェブサイトから支部会員のページの「お知らせ」(<https://www.hikakutokyo.com/mm>)のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。なお不要になった場合は、いつでも配信停止にすることができます。お届けするメールマガジン欄外に掲載の「配信停止希望」のリンクからお手続き下さい。

日本比較文学会東京支部ニューズレター127号

発行人：佐藤宗子

編集委員会(編集担当)

委員長：椎名正博

委員：鈴木美穂 高柳聡子 永井久美子 堀江秀史 安元隆子

事務局(発送担当)

事務局長：堀啓子

事務局委員：川野礼音 小泉泉 土田久美子 南平かおり

芳賀理彦 畑中健二 蒔田裕美 森本真一

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目4-1-1

東海大学 文化社会学部 文芸創作学科

堀啓子研究室

TEL: 0463-58-1211(内線3275)

E-mail: hikakubungakutokyo@gmail.com